



21世紀に生きる君たちへ その1

司馬遼太郎

□本日、「3年生を送る会」がリモートにて実施されました。

後期入試を控えつつ、卒業式までのカウントダウンも始まっています。

1980年代後半、バブル真っ只中の日本を眺めながら、司馬遼太郎が子どもたちのために書いた文章を紹介します。小学校6年生の国語の教科書に載っていました。とても大事なことがシンプルに書かれています。読んでください。

二十一世紀に生きる君たちへ 司馬遼太郎

私は、歴史小説を書いたこと。両親を愛するようにして、歴史をもっと歴史が好きなのである。両親を愛するようにして、歴史を愛している。

歴史とはなんでしょう、と聞かれるとき、「それは、大きな世界です。かつて存在した何億という人生がそこにつめこまれていて世界なのです。」と、答えることにしている。

私には、幸い、この世にたくさんのお友達がいる。歴史の中にもいる。そこには、この世では求めがたいほどにすばらしい人たちがいて、私の日常を、はげましたり、なぐさめたりしてくれているのである。

だから、私は少なくとも二千年以上の時間の中を、生きているようなものだと思っている。この楽しさは——もし君たちさえそう望むなら——おすそ分けしてあげたいほどである。

ただ、さびしく思うことがある。私が持っていないくて、君たちだけが持っている大きなものがある。未来というものである。私の人生は、すでに持ち時間が少ない。例えば、二十一世紀というものを見るのができないにちがいない。君たちは、ちがう。

二十一世紀をたっぷり見ることができればか、そのかがやかしいにない手でもある。

もし「未来」という町角で、私が君たちを呼びとめることができるなら、どんなにいいだろう。

「田中君、ちょっとかがいます、あなたが今歩いている二十一世紀とは、どんな世の中でしょう。」

そのように質問して、君たちに教えてもらいたいのだが、ただ残念にも、その「未来」という町角には、私はもういない。だから、君たちと話ができるのは、今のうちだということである。

もっとも、私には二十一世紀のことなど、とても予測できない。ただ、私に言えることがある。それは、歴史から学んだ人間の生き方の基本的なことでもある。

昔も今も、また未来においても変わらないことがある。そこに空気と水、それに土などという自然があって、人間や他の動植物、さらには微生物にいたるまでが、それに依存しつつ生きていくことである。

自然こそ不変の価値なのである。なぜならば、人間は空気を吸うことなく生きることができないし、水分をとることがなければ、かわいて死んでしまう。

さて、自然という「不変のもの」を基準に置いて、人間のことを考えてみたい。

人間は、——くり返すようだが——自然によって生かされてきた。古代でも中世でも自然こそ神々であるとした。このことは、少しも誤っていないのである。歴史の中の人々は、自然をおそれ、その力をあがめ、自分たちの上にあるものとして身をつつしんできた。

この態度は、近代や現代に入って少しゆらいだ。

——人間こそ、いちばんえらい存在だ。

という、思いあがった考えが頭をもたげた。二十世紀という現代はある意味では、自然へのおそれがうすくなった時代といっている。

同時に、人間は決しておろかではない。思いあがるということはおおよそ逆のことも、あわせ考えたい。つまり、私も人間とは自然の一部にすぎない、というすなおな考えである。

このことは、古代の賢者も考えたし、また十九世紀の医学もそのように考えた。ある意味では平凡な事実にすぎないこのことを、二十世紀の科学は、科学の事実として、人々の前にくりひろげてみせた。

二十世紀末の人間たちは、このことを知ることによって、古代や中世に神をおそれたように、再び自然をおそれるようになった。

おそらく、自然に對しいばりかえっていた時代は、二十一世紀に近づくにつれて、終わっていきがちがいない。

「人間は、自分で生きているのではなく、大きな存在によって生かされている。」と、中世の人々は、ヨーロッパにおいても東洋においても、そのようにへりくだって考えていた。この考えは、近代に入ってゆらいだといえ、右に述べたように、近ごろ再び、人間たちはこのよき思想を取りもどしつつあるように思われる。

この自然へのすなおな態度こそ、二十一世紀への希望であり、君たちへの期待でもある。そういうすなおさを君たちが持ち、その気分をひろめてほしいのである。

そうならば、二十一世紀の人間は、よりいっそう自然を尊敬することになるだろう。そして、自然の一部である人間どうしについても、前世紀にもまして尊敬し合うようになるのちがいない。そのようになることが、君たちへの私の期待でもある。(次号へ続く)

来・再来週の予定

如月から弥生へ

変更もあります

| | 授業等 | 備考 | 完全下校 |
|----------|-------------------------------|--|-------|
| 28 月 | 月①～⑤ ⑤卒業式練習 | | 15:30 |
| 3/1 火 | 火①～⑥ | | 16:30 |
| 2 水 | 水①～⑥ | 志願先変更日 9:00～16:30 ※「進路通信 No.5 6」をよく読んでください | |
| 3 木 | 木①～⑥ | | |
| 4 金 | 金①～⑥ ⑤⑥卒業式練習 | 身だしなみチェック 後期入試事前指導 | |
| 7 月 | 月①～⑤ | 志願取消日 9:00～16:00 | 15:30 |
| 8 火 | 学校待機生徒3時間・給食なし 奉仕作業等 | 後期選抜 | 11:50 |
| 9 水 | 学校待機生徒3時間・給食なし 奉仕作業等 | 後期選抜 | 11:50 |
| 10 木 | ①②卒業式学年練習 ③④卒業式全体練習 ⑤学活 | | 16:30 |
| 11 金 | 卒業式 | | 12:00 |

—支えてくれた人への感謝、
仲間への思いやりをもって、
残りの日々を大切に過ごそう—

